

## 弱い普遍性の探求

世界的に活躍する中国の政治思想研究者、許紀霖の日本独自編集による論文集である。収録されているのは、二〇一〇年以降に発表された論文、対話の記録であり、本書のための書き下ろしも含んでいる。

時代を少し振り返れば、文革後の中国の新しい思想動向を伝えるものとして、金觀濤・劉青峰『中国社会の超安定システム——「大一統」のメカニズム』の訳書が一九八七年に、「啓蒙と救亡の二重変奏」を含む李沢厚の論文集『中国の文化心理構造——現代中国を解く鍵——』が一九八九年に公刊され、どちらも日本で大きな反響を呼んだ。なお、著書の許紀霖は、金觀濤から強い影響を受けたという(三〇五)。以下、『普遍的価値を求め』からの引用は頁数のみ記す。ただ、九〇年代には、文学関連は別として、中国における現代思想関連

### 志野 好伸



許紀霖著／中島隆博 王前監訳  
及川淳子 徐行 藤井嘉章訳  
普遍的価値を求め  
中国現代思想の新潮流

四六判 360頁  
法政大学出版局  
[本体 3,800円 + 税]

の書籍の翻訳出版は、ほとんど見られなくなる。この状況を変える一つのきっかけになったのが、二〇〇六年に出版された汪暉の論文集『思想空間としての現代中国』ではなからうか。汪暉の著書、論文集がその後何冊も日本で翻訳・刊行され、二〇一〇年代になると、陳光興『脱帝国——方法としてのアジア』(二〇一一年)、賀照田『中国が世界に深く入りはじめたとき——思想からみた現代中国』(二〇一四年)、葛兆光『中国再考——その領域・民族・文化』(二〇一四年)、張博樹『新全体主義の思想史——コロンビア大学現代哲学講義』(二〇一九年)などの出版が続く。黄俊傑『台湾意識と台湾文化——台湾におけるアイデンティティの歴史的変遷』(二〇〇八年)、羅永生『誰も知らない香港現代思想史』(二〇一五年)をここに加えてもよいだろう。本書『普遍的価値

値を求める——中国現代思想の新潮流』もこうした出版傾向の中に位置づけることができる。

また欧米の哲学・思想書の翻訳を多数手がけてきた法政大出版局の叢書ウニベルシタスにおいて、本書は初めて中国語から訳出されたものという。仏英の碩学であるジャック・ジェルネの『中国とキリスト教——最初の対決』、ジョゼフ・ニードムの『文明の滴定——科学技術と中国の社会』はラインアップにあるものの、中国語圏からの翻訳はこれまでなかったのだ。したがって本書の刊行は、許紀霖の言い方を模すれば、欧米によって独占されてきた普遍の中に、中国という特殊事例を組み込んで普遍を考え直さざるを得なくなってきたという知的状況、賀照田の訳書題名を使えば「中国が世界に深く入りはじめた」状況を象徴する出来事と言えよう。

さて、本書の中心をなす問題は、監訳者の中島隆博が的確にまとめているように、「特殊のために、普遍という概念を鍛え直すこと」(三三五)に集約されるだろう。許紀霖はそれを「新天下主義」ということばで語る。「新天下主義」ということばだけを聞けば、許紀霖の考えは、中国の伝統的な天下思想を現代に焼き直し、中国を中心とする新たな世界的な秩序を再構築しようとするものだろう、と推測する人もいよう。端的に言って、それは誤解である。許紀霖は、中国国内

にそのような覇権的志向が存在することを踏まえた上で、むしろそれを批判するために「新天下主義」を提唱しているのだ。中国の一部の論者が「西洋は普遍性を騙る特殊文明にすぎないと批判しながら、同時に自らの文明に対しては、もともと普遍的資格が備わっているとみなす」のは(二二五)、ダブルスタンダードにはかならない。「新天下主義」によって許紀霖が乗り越えようとしているのは、「古代の朝貢体系を中心とする中華帝国の秩序」であり、「日本による大東亜共栄圏秩序」であり、米ソ対立を反映した「東アジアの冷戦秩序」、そして現在の「日中間の対立を中心とするポスト冷戦秩序」(四)である。以下、具体的に、必ずしも収録された論文の順序にとらわれずに、許紀霖の議論を紹介しよう。

まずは現代の中国の状況に対する批判をとりあげる。『中国が世界をリードするとき』でマーティン・ジェイクスが、近代以来の中国を「国民国家のふりをしていて文明」と評価するのを引用しつつ、許紀霖はそれに対し、「現代の中国は、表面的には五千年の歴史を有する文明国家だが、実質的には国家主権を核心とする国民国家である」(二〇六)と断じる。中国の勃興は、GDPの値などで示される国力の増強を追求する「富強の勃興」(九〇)にすぎず、新しい普遍的な文明を提示しえていないというのだ。現在の中国の姿は、「自分

自身が西洋と異なる中国的特色を有する政治ルートと政治モデルであることを証明しようとして」おり、「人民の利益と中華文明の神格化を通じて、ある種の国家フェティシズムを形成しようとしている」ように映る(二二五―二二六)。彼は、王紹光が西洋的民主主義に対するオルタナティブとして提唱した、「民衆が願望を伝え、政府がそれに応答する」という「応答的民主主義」(二三八) に対しても手厳しく批判する。それは、「こつそりと政治の主体を市民から統治者へと置き換えたもの」にすぎず、実質は一種の「応答的権威主義」である。それは、「公的利益の名を借りた土地収用と立ち退き」の強制に見られるように、「政府の権力が自ら人民の根本的な利益を代表していると宣言しさえすれば、何の拘束も受けることなく、恣に具体的な市民の利益を侵害」(二三八―二四〇) することを可能にする論理なのだ。

中国特殊論に依拠する国家主義を批判した許紀霖は、「普遍的文明か、それとも中国的価値か」という問いを「偽の問い」として糾弾し、「普遍的文明という大志を持って、中国の価値を再建すること」(二二四) が重要だとする。許が目指すのは、「文明一元論」でも「文化相対主義」でもなく、「文化多元主義」(二二二) である。許がモデルの一つにするのはEUであって、「EU式の東アジア共同体」(二七) が模

索される。ただそのEUについても、トルコの加盟やムスリム移民の流入によって、「ヨーロッパ人のヨーロッパ、キリスト教のヨーロッパであるのか、それとも文化多元主義のヨーロッパであるのか」(一九) が問われていることを付け加えることを忘れない。文明一元論を批判する許は、複数の共同体の存在を前提としており、「共同体のアイデンティティにはまず「他者」が必要である」(二二) ことを認めている。ただしその際留意すべきは、その他者を「敵」すなわち「対立の他者」ではなく、「相互作用の他者」、「参照の他者」、「薄くて弱い相対的な他者」(二二) として接遇することである。

許紀霖は、こうした他者の遇し方として、批判をも含む「理性的な対話と交流」による「積極的な寛容」と區別して、「傾聴と理解」による「消極的な寛容」をも認めている。「傾聴と理解」とは、「平等な姿勢で他者の声に耳を傾け、同情的に他者の行為を理解しようとすること」であるが、「受け入れることを意味しているわけではなく、ただ大きな度量を有した包容力によって、制度と態度の両面から、異なる宗教と文化を許容すること」(四九) である。「積極的な寛容」と「消極的な寛容」の區別は、ジョン・ロールズの言う正しさ(High)と善(good)の區別と重ね合わされ、「善とは何なのか」というレベルにおいては、異なる宗教、文化と生活様式の

多元的存在を認容し、制度設計を行って、それぞれの発展を「保証」(五〇) することが必要だとされる。この立場は、「極端な世俗主義と極端な宗教原理主義」(五二) をともに斥けるものであり、「どのような宗教や哲学の学説であれ、公共的理性と世俗化という文明社会の核心的価値に従わなければならない」(五〇) という正しさにも一定の留保を附すものだと言えよう。この立場からは、シャルリー・エブド襲撃が非難されるのと同様、シャルリー・エブドの風刺も「下品でくだらない」(四九) ものとして却下される。第六章でも正しさと善の区別に依拠して、理性と信仰の共存の方法が探られる。

中国の伝統に「新天下主義」の参考となる例を求めれば、「一人の「小我」や一家一姓の王朝の利益を超えて、家にもとづく国の上に、天下という普遍的な価値を見出した」儒家の学問や、「近代的なコスモポリタニズム精神によつて、個人と人類を通貫する天下主義の精神を継承」した五四運動時期の中国の知識人が挙げられる(七六―七七)。華夷の区別は人種に基づくものではなく、文化に基づく相対的なものであつて、「天下」のもとで通じ合うことができること(五六、一一六)、儒仏道の三教の合流(二六〇)なども、その例に含まれる。第五章では、積極的に西洋的な価値基準を受

容しようとした五四時期の知識人について、まとまった記述がなされ、嚴復、梁啓超、杜亜泉、胡適、陳独秀、李大釗から梁漱溟まで、主義主張を異にする彼らがともに、「世界文明という大きな視野と普遍的な人類という立場から」「世界文明の全体的な大趨勢の中での中国文化の道を探っていた」(二三〇) ことが評価される。

したがつて、「特殊のために、普遍という概念を鍛え直す」という課題への回答は次のようになる。許紀霖が追求する文化多元主義に基づく「新天下主義」は、「核心となる民族から全世界へ、中心から周縁へ、単一の特種性から同質の普遍性へと上昇する文明の構成それ自体」(六一) を批判するものであり、ロールズの表現を用いれば、「様々な文明と文化の「重なり合う合意」を特徴と」(六三) する。それは、台湾の銭永祥の言葉を借りて、「他者を否定する普遍性」でも「他者を超越する普遍性」でもなく、「わたしと他者の相互承認、差異に対する尊重、そして対話と合意を積極的に探究する」「他者を承認する普遍性」(六四) とも表現される。この立場からは、「西洋文明の人権基準を万民法の核心的価値とするのは、あまりに強すぎる実質を持たせているように見える」(六五―六六) との判断が帰結する。

以上のとおり、許紀霖の志向する普遍性は「弱い」普遍性

であって、さまざまな価値観を許容するものだということが指摘できる。ただ「弱い」からといって、それが批判性に乏しく「何でもあり」を招くと考えるのは誤りであって、過度な一体性を要求する「強い」普遍主義や普遍性を拒否する特殊論に対する鋭い批判が本書で展開されていることは、すでに指摘したとおりである。対話に乗って来ずに攻撃してくるような他者に対して、結局「新天下主義」はなすすべもないという批判もあるだろう。しかし「強い」普遍性を標榜するかぎり相手からの妥協は見込めないが、「弱い」普遍性なら、相手が立場を変えて、対話に乗ってくるかもしれない、対話まで行かずとも、ひとまず相互承認し合うことはできるかもしれない。そうしたことを期待させるだけの魅力が「新天下主義」にはある。また、「人権」の問題をめぐってどのような線引きがなされるべきなのか、許紀霖は具体的に答えを出していないといった批判もありえよう。ただし、許紀霖がなそうとしているのは、「人権」を金科玉条のように持ち出すことをやめ、それについての普遍的なあり方を議論する場を設けようということだ。「新天下主義」は対話への促しに溢れた構想であり、それが日本語で読者に届けられたことを慶賀したい。

(しの・よしのぶ 明治大学)

## ●● パソコン・電子出版関連商品のご案内 ●●

表示価格は東京店店頭における販売価格(本体)です。

### ◎中国語入力システム

**Chinese Writer 11 スタンダード** (Win 10 / 8 / 7) ..... 高電社 / 26,000  
 小学館日中辞典第3版、Unicode版 中日大辞典第3版ほか辞典6種搭載。

**Chinese Writer 11 学習プレミアム** (Win 10 / 8 / 7) ..... 高電社 / 28,000  
 Chinese Writer 11 スタンダードの内容にさらに検定対策、声調マスターを搭載。

### ◎日中／中日翻訳

**J 北京特許翻訳エディション** (Win 10 / 8 / 7) ..... 高電社 / 200,000  
 「中国特許」に特化した翻訳ソフト。Microsoft Office、一太郎、Web ブラウザ、PDF などに対応。

### ◎電子辞書

**カシオ エクスワード XD-SX7300 (WE / RD) ケース付** ..... カシオ / 特価各45,000  
 「中日大辞典第3版」「小学館中日／日中辞典第3版」「現代漢語大詞典」「中国語生活図解辞典」  
 「漢英大詞典第3版」「英漢大詞典」「日中英固有名詞辞典」ほか収録。カラー液晶。白／赤の2色。

### ◎その他

**中国語教学(教育・学習)文法辞典【PDF版】** 鳥井克之編著 ..... 東方書店 / 2,800  
**大漢和辞典デジタル版 (USB)** ..... 大修館書店 / 130,000